

## 会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	平成19年度 第8回 川西市社会教育委員の会		
事 務 局 (担 当 課)	生涯学習部 社会教育課 (内線 3421)		
開 催 日 時	平成20年2月27日(水) 10時00分～12時00分		
開 催 場 所	川西市役所 地下1階 B02会議室		
出 席 者	委 員	生田議長、小柳副議長、森委員、敷地委員、後藤委員 佐道委員、十河委員、池田委員、福島委員 計9名	
	そ の 他		
	事 務 局	玉邑生涯学習推進室長、後藤中央公民館長、 松岡教育情報センター所長、山川社会教育課長 横田中央公民館主幹、村上スポーツ課長補佐 神吉社会教育課主任 計7名	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会 議 次 第	1. 報 告 (1) 平成19年度阪神北地区社会教育委員協議会 第2回研修会について (2) 第50回兵庫県公民館大会(兵公審協中央研修会) について (3) その他 2. 議 題 (1) 年間テーマ「よりよい地域教育システムづくり」 (2) サブテーマ「人でつながる場づくり」 3. その他		
会議結果	別紙のとおり		

# 審 議 経 過

No. 1

議長	<p>最後の議論ということになります。前回もお話していますように、1年間こういう論議をして施策の上でも是非役立てていただきたいという立場でもあります。まとめられたらまとめたいなということで前回終わりました。阪神北の他市の状況を見ましても、諮問を受けていない場面は、テーマ設定までに時間を費やししながら、共通理解と同時に行政の方も一緒に認識していただくというパターンがありました。7回に渡りまして論議が行ったり来たり、あるいは昨年一昨年の論議を絡ませながら、大きなテーマとして「よりよい地域教育システムづくり」ということで論議してきました。まとめ方についてなのですが、過去の議事録を要点だけ挙げた原案的なものを私案として出させていただきました。それを基に論議や付け加えをしていければと思います。この論議で地域教育システムづくりというところが過去3年間からずっと続いているのです。川西市教育委員会から出されている「花ばたけ」にも、あるいは文部科学省の本年度の予算の重点としましても地域教育の再生という視点で動いていますし、近畿大会でも県大会におきましても、社会教育とは何かという論点の中で地域の教育力の重要性がトップとして謳われています。学校教育については一大主流の形の中で特に最近は学力問題も含めて学校教育は基盤の部分ではあるけれども、それだけの時代ではなく、地域との連携、地域の教育力あってこそ学校の部分というものも見直され、社会教育あるいは家庭教育の視点というものが教育基本法に入り込みすぎているのではないかと思うぐらいははっきりと入っています。その辺も考え合わせながら論議してきたところです。過去3年間の「青少年の居場所づくり」、「人でつながる輪」、そして今年は「場」、皆同じテーマなのです。一番根幹である部分を川西市の社会教育委員の会ではポイントは外れていない形で論議をしてきたかなと思っています。ただ抽象的になりやすい部分ですが、過去の記録を見ますと、17年度、A委員が議長の時に出されている報告は、居場所づくりを基にして具体的な形で提起をされてい</p>
----	--

議長

ます。前回もお話しましたが、PTCAが1千名近く集めて、各諸団体が一体となって市長が開催の立場に立ってオール川西のようにされた。そういうことの提言を2年前の意見でも述べていて、それを具体化されているのだなと嬉しく思ったところです。

私案にあります、今年度の討議報告として、家庭教育をひとつ挙げています。

地域コミュニティと学校との連携の活発化について、実践例の報告もありました。

公民館等の生涯学習ネットワークの活動拠点としての機能の充実、特に川西においては公民館等の活動が自慢できるほどすごく数が多いし活動も活発ですし、参加されている市民の方、グループ数も他市と比べ物にならないぐらい大きな拠点として活動されている部分を評価しながら、更なる地域の拠点になってほしいという思いを三つめに述べています。

四つめに情報発信の問題がありました。情報の提供やピアアールの工夫、評価すべきところはしながら、より一層学校、公民館やNPO等、総合的な形で情報発信ができないだろうかということを書いています。

コーディネータの育成への努力ということで時間をちょっと費やしたと思います。

公民館等を含めての部分もそうですが、NPO中間市民支援組織等との協働と同時に、人材育成について連携を取って組織的に継続的な形が提起できないかと書いています。

地域における活動拠点ということで、地域差はあるにしても地域コミュニティが大きなポイントになっていますし、非常に学校の連携も含めて活発化していると評価をした上でコーディネータ役として、あるいは市におけるところの教育機関の連携について述べています。

最後に子育て子育て支援をめぐるということで、言い換えれば家庭教育を含めての部分なのですが抽象的にまとめています。

<p>議長</p>	<p>まとめとして、各4年間、場づくり居場所づくりを含めて総論的に、具体的に報告したところであるのですが、あくまでも生涯学習社会にあたって、社会教育は学校教育のみならず様々な教育活動、地域づくりに深く関わっているという認識の下で教育委員会や市長部局の関係機関との連携をより一層強化されそれぞれの視点から地域教育力の活性化を図り、市民が生き生きと生活できるまちづくりに向うことを要望するものであると、総論的なまとめ方しかできておりません。具体的にもっと書かなければならないところもありますし、たたき台といいますか、どこからの切り口でもいいですから、各委員の方から感想、総括も含めて論議いたしましょうか。</p>
<p>A委員</p>	<p>この2枚に、数年間私達が議論してきたことが集約されていますが、言われたとおり、総論的でもっと具体化する必要があると思います。例えば「地域コミュニティーと学校との連携を活発化させる」ですが、誰がどのような形で活発化させるのかというのが問題で、これをまとめる人材が必ず必要となってくる。誰とどのような場所でどのように進めていくかということを考えていく力を持つ人を養成していく必要性が出てくる。その先端にいるのが地域の公民館だと私は考えています。公民館はそのために何をするかというと、いろいろな情報を提供するとともに情報収集をしていく必要がある。どのような情報収集かというと、地域におけるコーディネーター役をしてくれる人材を見つけるための情報収集です。公民館はコミュニティーや学校と連携を図りながら見つけていってほしい。そういう人が出てくればそういう人と一緒に地域をどういう風にしていくか計画していく。益々少子高齢化が広がってくるし、それが大きな社会問題となってくることは確実だし、そういう面においては社会教育というのはすごく大切になってきます。そのような中でそういう人、一人では何もできないので複数必要。「花ばたけ」にも、地域社会が幼児、児童、生徒をともに育てるとありますが、と</p>

<p>A委員</p>	<p>もに育てるのはわかっているが、具体的にどうするかということもちゃんとわかっていなければならないし、そのための人材養成をきちんとしていく必要があると思います。</p>
<p>議長</p>	<p>事務局に聞きたいのですが、先程言いましたPTCAについては行政に反映されていると認めているのですが、教育委員会だけで大丈夫かなと個人的に思うことがあるのです。地域づくりと地域の教育力ということになると教育委員会だけではいけないところにきていると感じています。オール川西、市長部局も含めてやっていかないと。どこも試行錯誤されているようですが、まとめながら不安になってしまいました。例えばコミュニティーは教育委員会の手を離れてしまっている。「場」は公民館、教育委員会が所管している。コミュニティーの施設としては市長部局が所管をしている。地域におけるコミュニティーの活動のリーダーづくり等は市長部局の担当。公民館が絡めない。上手くいっている時はいいけど上手くいっていないところでガタガタしたという過去の経験というのがあります。何を言いたかったかといいますと、行政は地域の教育力、A委員が今言われたようなことを受けてしていくとなったら、形として表しにくいのではないかと思います、いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>コミュニティーの所管は市長部局なのですが、私ども生涯学習部の中でもスポーツにつきましてもコミュニティーの体育部会との連携、地域教育が子どもたちの地域における活動等につきましてもそれぞれ組織を作っていますがそのバックにコミュニティーがいて下さって、青少年育成会議等についても、コミュニティーが前面に出る出ないは別にして、全てがコミュニティーと絡んでいます。教育委員会の所管ではないからというのではなく、コミュニティーを核としたあらゆる関係団体との連携と協力がなければ教育委員会の事業としても進みませんので、どこに属している云々というより、連</p>

# 審 議 経 過

No. 5

事務局	<p>携を強めていく、またお願いをしていくというようなことが大事だと思っています。</p> <p>学校教育については学校教育の充実とともに、放課後、土日の部分については非常に地域の協力が大切で、放課後子ども教室にしてもそうですが、地域の方々の力で子ども達を育てていただくことが必要ですので、益々これから連携が必要になってくると思います。</p> <p>また、公民館がそれぞれの核になって、もっと人材を投入して将来的には市役所の出先機関的な機能もやっていければいいのではと個人的に思っています。</p>
B委員	<p>各コミュニティが関わっていると今おっしゃいましたが、それぞれ関わっている部分で教育委員会と市長部局のつながりというのはあるのですか。それぞれ関わっているけれど、関わっているだけで終わってしまっていたら。</p>
事務局	<p>来年度、教育委員会のスポーツや社会教育の一部が市長部局にという組織改正がありますが、あれは市長部局だから関係がないとは当然いきませんし、教育基本法とか理念は何ら変わることはありません。ただ、難しい面も確かにあると思います。</p>
副議長	<p>公民館は川西に10館もありますし、生涯学習の拠点となっていくと思います。公民館の職員の皆さんもがんばってくださっているのですが、そこに市民が入れる、一緒にやっていけるシステムを作る必要性をきちんと書き込んだ方がいいと思います。例えば公民館の講座も職員の皆さんがいろいろな視点から考えられて作ってくださっていますが、そこに市民も企画段階から入っていることによって参加も促されるし、地域のニーズに合った講座や企画がされるのではと思います。そのシステムの必要性を訴えるというのもひとつかなと思います。</p> <p>学校外の子どもの居場所について考える必要があるということな</p>

<p>副議長</p>	<p>のですが、川西の場合は公民館がとても大切かなと思いました。児童館と名前が付くところが2つ。</p> <p>前回京都の児童館へ行きませんかというチラシをお配りさせていただきました。F委員も行かれたのですが、京都の児童館へ行ってきました。京都の場合は留守家庭児童クラブを児童館に任せていらっしゃるのので、児童クラブが児童館の中であって、児童館には児童クラブの子ども達も、地域の子も達も行けるし、子育て中のお母さんも行ける。今103ぐらいあって150ぐらいに増やそうとしています。京都市は百万都市ですので数が多いのは当然なのですが、たくさんあることによって子どもの行き場所がある。寂しい時にあそこに行ったら指導員の方々がいる。子ども達が遊んでいる。そこは留守家庭児童クラブと一緒になっていますので登録されている子どもも、そうでなくぶらっと来る子どもも一緒に遊べるのです。F委員とも、川西も公民館が10館もあるので一部でもそういう形で子どもの居場所に使っていけるような方法が考えられたらいいですねという話をしました。</p>
<p>議長</p>	<p>市民の方を含めて、公民館に対してとても関心が高いというのは、各委員関わっているのもものすごく感じるのです。コーディネーター役としての重要性を期待をされている。公民館や第一線の現場で社会教育に携わっている職員や地域の方々の関心が強いし、よく勉強もされていることを委員の皆さんは肌で感じているところで発言をさせていただいている。何とかいい方向で、できること、できないことがあるのですが、我々は市民代表として言っていかなければならない。A委員、副議長のご意見も是非この中に入れられたら入れていきたいと思えます。</p>
<p>C委員</p>	<p>連携をどういう形すべきか。子どもに関する会議に行くと、たいてい国から、県が市がということで、市という形の中で我々が現</p>

C 委員	<p>在検討している、子どもの居場所づくりや放課後子ども教室とかそれぞれが違う検討をしている。PTAの方達が多い場合は、実際子どもがいるということを踏まえた問題提起をしている。我々は教育から離れた者が社会人としての視点を置いている。実態というのはお母さんとか現在子どもを育てている方の意見を聞くことで「こういうことなのか。」と物の考え方が違うと認識させられる。ここで言っている拠点という部分も、公民館、地域の自治会館が拠点になる、市長部局への統合というのも、我々の主観、子どもに関係していない立場から、横の連携をすることによってより広くなると考えているが、お母さん方のグループに入っていくと、視点やポイントがずれかかっているのかなと思うことがある。何かここまで来いという言い方をしているのかなと思うことがある。実態の中で、それぞれの組織を連携して交流した会議をするとか、意見を集約する必要がある。</p> <p>現在進めている子どもの居場所づくり、放課後子ども教室も実施しているところと、していないところとかなり差がある。その地域ではどうしても壁がある。よその地域と合流することによってその壁をぶち破ろうという動きとして、実態調査をするという形で今年どういう形が入っていくのがいいかということで、具体的な形を検討したわけなのです。傍観者の立場として見ながら、全体的な連携としたらこういう形が必要でないかと、そういう面については我々の方が経験的に大きいからと、従ってそういうような形で広げることについては必要なことだと、一方として入れてもらったらどうかという意見を入れている。</p> <p>それぞれの違った形を連携できるというのは自分がやってみないと具体的にわからないので、私は読み聞かせのグループに入っている。その中で活動している人の意見を聞くとより体験的になる。それを如何にまとめられるか。</p> <p>市長部局との統合というような形で教育委員会と市長部局の連携</p>
------	--

C 委員	<p>を密にしながらもっていくか、一本にして命令形とはっきりとしていくことで連携した方がいいのか、今後の方向かなという感じで、その辺は組んだメンバーによって趣旨に沿って議論しながら外れないようにするのが大事だと思います。</p>
議長	<p>ものすごく不安定といますか、どうなっていくのだろうというところですね。例えば来年の社会教育委員の会はとても大変だと思っています。行政も大変ですし、行政もSOSを出してこられると思います。理念的なことや将来的なこと学校教育、社会教育の再度の確認、具体的な形でこれらの施策のこと。社会教育委員の会は教育委員会にしか答申できない。</p>
A 委員	<p>C委員が言われたとおり、それぞれの活動している立場で見る視点というのは変わってくるのです。それをどうするかという話があったのですが、どこのコミュニティーもそうだと思いますがグリーンハイツ、緑台、陽明のコミュニティーは各小、中学校のPTAとか献血とか福祉とか体育とか安全とか部会の人が集まってコミュニティー運営会議を年に2回ほど開くわけなのです。その中でいろいろな立場の人が意見を出してきて情報を提供してコミュニティーはそれをまとめてどうするかというのを決めておられる。その中に公民館の館長さんが来られていない。その場においてその中で公民館もこうしていかなければならないとその時に触れて感じていってほしいと思いました。</p>
D 委員	<p>北陵もコミュニティーの会議が2ヶ月に1度ぐらい開かれるが、教頭が行ってそこで学校としての立場、意見、行事に対するお互いの協力を言っています。その会議があるから地域の人を知ることができるし、つながりがりができた情報が入る。勤務時間外だけどそれはすごく大事だと思います。</p>

<p>A 委員</p>	<p>公民館の立場としての話もしてもらいたいと思いますし、その辺から地域教育に対する糸口がつかめていくのではないかと思います。</p>
<p>D 委員</p>	<p>地域教育活動の拠点が公民館ということですね。</p>
<p>A 委員</p>	<p>はい。</p>
<p>議長</p>	<p>そうだと思いますし、校長先生 2 人お見えで論議に参加していただいてますが、学校も大きな拠点であることは前提の部分で、校長先生自らコーディネーター役として実践をされてその地域の大きな拠点となっているという報告も昨年ありました。E 委員、1 年間会に出られて、学校だけの社会と違うところの会ですので、違った感じを持たれたと思いますが。</p>
<p>E 委員</p>	<p>「地域コミュニティと学校との連携を活発化させる」あたりでも、いろいろ考えながら参加させてもらったのですが、先週の朝礼で子ども達に話したのは、「もっと地域の中に出て行きなさい」と話しました。なぜそういう話をしたかということ、PTCA 青少年フォーラムでうちの放送委員会が表彰されたのです。私としては意外だったのです。というのは放送委員会が地域の活動を始めて 3 年目になるのですが、前年度は陸上部が貰って、陸上部は 20 年ぐらい地域の活動を続けているのでそういうことがあってもいいかなと思いましたが、今年は推薦されたこと自体、私としては意外でした。ただ、推薦理由などを伺っていたら、子どもにも話したのですが、「地域の方は、皆が出てきてくれたらうれしいのだ。期待もしてられる。君らも地域の間人なのだから行事には頑張っ出てほしいな。」と話しました。それは伏線があって、4 月に 3 年生を対象とした全国的な学力生活状況調査がありました。学力調査の方は、私</p>

<p>E 委員</p>	<p>としてはちょっとおおまかな調査だと思っているのですが、生活面は非常に細かいところまであって、自分のところの子どもを客観的に捕らえるのに参考になりました。うちは川西の中では地域とのつながりは強いと思います。いろいろな行事もありますし、本気で怒って下さる地域の方がいてくれる。だけど全国的なデータと比べたら意外だったのですが、地域とのつながりが弱い。私としては強いと思っていた。そういうことがあって、思いがけず推薦させていただいて表彰されたというのは、地域の方がそういう思いでいらっしゃるのだなと考えて、そんな話をしたのです。</p> <p>子どもの居場所は、土日は家庭や地域に帰すというのは確かにあるのですが、家庭も一生懸命働いていらっしゃるのです、やはり私も含めて、うちの職員はできるだけ学校でも居場所を作ってあげたいなと思っています。その辺のところも、地域に子どもを行かせないひとつの原因になっているとも思うのですが、現実的に部活とか、できるだけ学校においてあげたいと思うし、家庭に帰すのも大事なことです、全部家庭で受け止めてもらえるかと言えば中々難しいところもあります。その辺のところの兼ね合いですね。少なくとも言えるのは子どもを啓発していく、地域の一員としての意識を持たしていくという点は今まで手薄だった部分だと思っています。</p>
<p>議長</p>	<p>学校現場の立場から、地域の連携の部分についてでしたが、E委員が話されたように、学校の先生方がわかっていらっしゃるつもりであっても、それ以上に地域の方は自分の地域の学校が好きなのです。愛していらっしゃるのです。頭ではわかっていてもやはりうれしいのです。放送委員会のお話がありましたが、地域の方は予想以上にうれしいといいますか、そういう思いが大きな力になっているのではないかと思います。</p> <p>社会教育と生涯学習、PTAの部分もそうですが、文化芸術、スポーツ、子ども会などいろいろ組織がある。スポーツ関係の部分も</p>

<p>議長</p>	<p>大切な場なのですね。ものすごく影響力のある、全身を使って心身共に教育できるといいますか、地域の方が関わっていただく中でこれまであまり論じていなかったけれど、改めてA委員からスポーツとの絡みの部分の論議を川西におけるスポーツ振興といいますか、社会教育委員の立場から提言的なものをお願いします。</p>
<p>A委員</p>	<p>私達は子ども達と接しながらスポーツを教えるだけではなく、まず礼儀から入っていきます。礼儀を教えることと仲間と一緒に練習を積んでいくというところに人間形成、そういうようなところを一番中心にやっていきます。強くなるならないはその後の問題で、一番大切なのは、人間形成で人間同士のつながりで、そういうものの大切さを教えていきますし、お互いを敬うというか切磋琢磨する心を養っていくことを中心にやっていきます。そういう気持ちで子ども達を連れてきて下されば、輪が広がってきて子ども達の輪が親にも広がる。親同士もいろいろな関係ができてくるというのが、自分自身が思っているようなところですよ。これは文化の方も同じようにいえると思います。また、スポーツを通じて川西の代表として外へも出て行くわけですから郷土愛といいますか、地域を愛する気持ちも生まれてきますし、そういう風なものをいい風に展開していくことができると考えています。</p>
<p>議長</p>	<p>スポーツが例えば市長部局にいったとしても、施策的には社会教育の中の一環の部分であろうかなと思っています。A委員が今言われたように人間形成の部分でも。公民館活動の中でもスポーツ団体は絡んでやっていらっしゃるのです。集いの場などで公民館やコミュニティー会館を拠点にされている部分があります。なおさらそこで頑張っている方が地域との連携やコーディネーター役の質を向上していただく、大事にしていくことが必要でなかろうかということも抜けないようにしているのですが。</p>

<p>B 委員</p>	<p>コミュニティーとかスポーツ団体とかやっぴらっしゃる方は長年没頭して頑張っぴやっぴこられるのです。校長先生とか生涯学習部の方とか館長さんとか頑張っぴやろうと意識の高い方もたくさんいらっぴやるのですが、何年か経つといらっぴやらなくなるのです。気持ちが次に伝わっぴいかない、昨日まで「公民館はこうしていくのだ。」と館長さんがおっぴやっぴたのが、次の日に別のところへ移るとおっぴやる。「今までしてっぴた話はどうなるの。」ということになる。やはり上にひとつ、まとめ役というのがあると思っぴます。</p>
<p>議長</p>	<p>資料の2枚目の丸にあるのですが、これは入れなければならっぴないと思っぴているのですが、他の社会教育委員の会でも同じような発言が出てっぴます。ここでは、「人材育成を通じて一過性ではなく、継続的活動を活性化するための支援を進める」という表現で書かっぴせていただっぴているのですが、NPOや支援組織との連携というか組織化とっぴいますか、具体的な形で育成、支援が必要と我々の立場で行政の方へ提言しなければならっぴないですかね。頭ではわかっぴていることなのですが、きちんとしてっぴいかないと、ということを一歩踏み込んだつもりでしたが、柔らかいですかね。</p> <p>前回、副議長のいらっぴやる支援組織の方から、児童館の見学の案内がありました。社会教育委員の会が主催して、行くぐらっぴの積極性があつたらいいのだけれどそれが中々できないものですから、NPOの方で企画を、企画とも連携されてやっぴておられるからすごいなと思っぴたのですが。</p>
<p>副議長</p>	<p>人が代わつたら取り組みかけてっぴたことが、ころつと変わっぴてしまふというのではいけっぴないと思っぴるので、公民館の職員の方も地域の方も一緒になっぴてやる、コミュニティーという組織はありますが、それは全体を連絡する感じのもので、何かそこでするというのはいベント的なものであつたり、小さく部会に分かれてされるというこ</p>

<p>副議長</p>	<p>とですよ。ですから行政と地域の方が一緒に、公民館という拠点で、人が代わっても揺るがないような、そこに人が集える場みたいなのを作り上げられたらいいと思います。職員の方だけでは異動があるので無理ですよ。だからそれは一緒にやれるように考えればいいのかと思っています。</p>
<p>議長</p>	<p>たぶんこの問題は、学校教育が大きなポイントの部分になるかと思うのですが、その辺はどうでしょうか。地域の拠点の部分で一過性ではない形で地域総ぐるみの中で、コーディネーター役というのが固定はしていくとは思いますが、PTAという若いお母さんが次から次へと循環的な形で育成される、組織的なものが構造的にできているから学校としては心配いらないのではないかという気はするのですが。弊害の部分もあるかもしれないですが。</p>
<p>D委員</p>	<p>PTAの役員をされた方が、次に地域の役員をされたり、地域の活動の中にPTAの役として出られて、そういう入口をきっかけに地域のことをいろいろと知るといえるのですか、最初はあまり自分からということではなかったのですが、地域の活動に出て行く中で、地域の行事やいろいろなことに関わっていく。組織の中にPTAが組み込まれている。だからどうしてもそういう活動をやっているかざるを得ない。</p>
<p>議長</p>	<p>いかざるを得ないぐらい伝統的に大きな拠点になっているのでしょ。PTAのOBの方を含めて皆絡んで、地域の大きな力になっていると思います。</p>
<p>F委員</p>	<p>PTAで役員をするとコミュニティーに出て行かなくてはならない。会議に出なければならない。それがきっかけになってそのまま自治会の役とかを引っ張られて引き受ける。役員をして次の役を引き受けて出て行くと同じメンバーが顔を合わす。きっかけは自分か</p>

<p>F 委員</p>	<p>ら望んではないにしろ、そこに行くとなりのつながりがうれしくて、次は自分から踏み込んでいけるような、PTAの役はそういうところで、やってこれたことがよかったなと思います。</p> <p>行かせていただいた京都の児童館で感じたことが、放課後の子ども達を中心とした人のつながりづくりをしておられるのですが、そこに、まだ小さなうちから親子がお弁当持ちで集まって集うところから始まって、小学校に入ると子ども達が遊びに来て、4年生まで放課後の保育は終わるのですが、その後も自由に子ども達が参加していて、中学生になっても来てて、高校生になっても来てて、大学生になっても来ててと、全員ではないけれど何人かがずっとつながっていつているのです。するとそこで縦のつながりが自然とできてくる。また、高校生ぐらいの子が、お一人で暮らされているところにお弁当を配達するといった、ボランティア活動を自然に子ども達が身につけて育っていつているのです。そういうのを見ていて、子どもを連れてきていたお母さんの中につながりができると、そのお母さん方が自分の子どもが小学校に入ったら、その後はおりがみを教えましょうとか、ちょうど私達の年代になるとプレババの会という、孫ができる時におばあちゃんになった時の心構えとかそういうのを話すような会を作られたりしています。</p>
<p>議長</p>	<p>これは行政主導ではなくNPO、施設は公的なものですか。</p>
<p>副議長</p>	<p>基本的には公設で、多くは民営です。指定管理であったり、委託であったり。</p>
<p>F 委員</p>	<p>市民が入って自主的な活動をなさっている。それを川西の公民館に、そのノウハウを取り入れたら公民館がとても行きやすくいいのではと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>公民館ではないのですね。</p>

副議長	<p>そこは児童館として設置されているもので、公民館とは設置の本 もとの法律が違うと思うのですけれども。</p>
C委員	<p>地域教育の考え方で、コーディネーター役というのがある。今、 話があった、児童館で子どもと地域の関わりを考えていったらそう いう状態に行き着いた、ひとつの例だと思います。お年寄りに配食 といった経験を、子どもがすることによってプラスになっている 例。その中で指導している人、それをコーディネーター役とする と、他の部門についても例えばスポーツの話でも、極端な例として 指導者が代わることによってやる気が薄れたとか、音楽の例です が、先生を中心に少年少女合唱団を作ったが、その先生から民間の 人が引き継いだことから、今は学校を離れた形で存在している。と いうことは、どの場合についてもいえるのですが、指導者のあり方 をどうするか。組織というのは継承していかなければならないが、 残念ながらどの組織についても人が代わると方針の変更があったり する。それぞれの部門でコーディネーターというか、間に入って調 整する人の育成を如何にするかによって、主旨がより徹底すること になるのではないか。そういった徹底をさす上において、全体的に 総論としてのものを、それぞれの人が知っていれば、「うちではこ れができる。そうしたらやってみようか。」と輪が広がっていくと 思います。部分的に人を通じて指導体制ができる形、それが先程言 った市全体的に市長部局か教育委員会かと、今後、論議になってこ なければならぬのではないか。そこで主導権は、どちらが子ど も、地域に対して熱意を持っていくか、政治的なものでアドバルーン としてやるのかどうかという方向付けが出てくるのではないかと 思う。</p>
B委員	<p>如何に継続できるかですよね。今、お話なさっていた、赤ちゃん から大学生になっても来るような子ができていくということは、何 十年に渡って同じことをやっていかななくてはならないという、どこ</p>

B 委員	<p>かで変わらないという体制を作らないといけない。</p>
C 委員	<p>頭にある人、そうなる固定化になるので、組織としてその固定化という問題は出てくるのですが。それに代わる指導をどうするか。</p>
議長	<p>コーディネーター役の人材育成について、生涯学習、社会教育においてバラバラになっていった場合、役所は役所の論理があると思いますが、例えばスポーツが教育委員会を離れる、それはひとつの施策であっても、コーディネーターを広い範囲で考えて提言するのはこの会しかないと思っています。教育基本法を含めたり、社会教育法などを含めた時の視点、今年の教育委員会として、どういう形になるのかという不安があり、気になるところです。</p>
事務局	<p>組織の改正があつて、スポーツは市長部局へ、社会教育の文化関係も市長部局の文化・国際交流課の方へ合体する。地教行法という法律で4月1日からは市長が担当できるという法的な裏付けも明確にされたところです。社会教育委員の会の論じるテーマが事業的にも狭められるのではないかと不安もあると思いますが、社会教育委員さんは社会教育や生涯学習全般についての提言を教育委員会にさせていただくのですが、方や社会教育団体やスポーツ団体等の各種団体に対してもアドバイスや指導ができるという法的な裏付けもあります。地域や各種団体でいろいろな積極的なスポーツ活動がされていますが、そういう団体などこうすべきだということは引き続き教育委員会にさせていただいたらいいと思います。組織が分かれますから市長部局と教育委員会の連携も今以上に必要になってきますので、教育委員会に提言していただいて市長の方へ伝えていくというようなイメージでいいと思います。</p>
C 委員	<p>以前、組織があつて新規加入を断る傾向があつた。補助金の関係で、排他的な行動をとる人がいた。市は調整ができないから団体で</p>

<p>C委員</p>	<p>やってくださいという。コーディネーター役の位置付けという場合でもそこで圧力を変えるような形であれば行き止まりが出てくるのではないか。そういうところの指導をどうするのか、基本的なものを逃げではなく実際にやっていけるかというところの議論を十分にしていかななくてはならない感じがします。</p>
<p>議長</p>	<p>補助金、お金に絡んだ部分にしても最終的に行政に絡んでいただいている部分はいつまでもではなく、いずれは自分達で自立しなければいけないという意識でないと、組織や団体は続かないし一過性に終わってしまう。全ての場面、学校も社会教育団体もいろいろな組織にしても、最後は自分達でやっていく、そういう時代だという認識で、なおさら人材育成も含めて地域教育システムづくりというのを繰り返しであっても粘り強くやっていかないと一過性でやっていたら市として力が弱まってしまうのかなと思います。</p> <p>これだけは入れてほしいということがありましたら出していただいて、後は、議長、副議長の方でまとめさせていただいて、来月、最後、公運審がありますが、その前後までにはまとめて教育委員会の方へ書類を残していきたいと思います。</p> <p>今、言われたように、具体的などころの部分も入れていく、人材育成をしっかりやっていかなくてはいけないということ、児童館の拡充も引き続いて今年も挙げさせていただくという形で。</p>
<p>C委員</p>	<p>最近、教育特区というのをよく聞きます。ひとつの時代の流れで、そういう項目を挙げる必要があるのではないか。東京の事例で、家庭での子どものしつけが必要だということでやっている。我々は家庭ですべきだと言っていますが。世田谷の日本語教育特区は国語と違う形で日本語を入れるというようなことがされています。漢文や漢詩、和歌とかを入れて、その中には道徳的な形が全部入っている。</p>

<p>議長</p>	<p>特区では、尼崎がそろばんをやられています、私の考えは基本的な根幹のところ、大きなインパクトのある部分なので、社会教育委員の場で、そこまでやっていこうという姿勢を持つべきなのか持たないべきか云々よりも、その次元の問題かなと思います。そうしないと非常に危険でもあるし流行の部分のような気もするし、長期的な戦略を考えて、学校現場に対してすごく影響する部分ですので、教育委員会として教育委員さんの合議性のもとで事務局と連携して提起していただく。我々も絡むことができないわけではないのですが、社会教育の部分ではアドバイスを求められたら出していく形でいいと思います。</p>
<p>C委員</p>	<p>家庭、家庭と言いながら、具体的に何かということを出すのか。そうすると学校でこういうことをしている。</p>
<p>議長</p>	<p>ものすごく危険な論議になってしまいますね。幼稚園、学校が関わってくるので。そこは慎重に考えて、身近に接していらっしゃる委員の皆さんや先生方、直接指導されて、一番実態を知っている方々が、一つひとつコツコツ実践していくしかないと思っています。お母さん、先生方、指導者の方々にしても皆、一生懸命なのですね。そこを違った角度からアドバイスする役が、我々委員の立場だと思っています。</p> <p>各委員の皆さん、総括をお願いします。</p>
<p>E委員</p>	<p>地域の活動に子どもが出やすいのは趣味特技の辺かなと思います。部活との兼ね合いが出てきますね。私が理想に描いているのは学校の生徒だけでなく、地域の子とも関わればいいなと思っていましたが、土日も部活をやっているからそれもできない。一番いいのは部活が完全に社会体育に移行して、教員も地域住民なので、土日は地域の活動に参加して、リーダーシップを取れる者がたくさんいるので、それが一番理想かなと思います。そうすれば地域の中で子ども達が必然的につながりますから。趣味や特技とか興味、関心</p>

E 委員	<p>に合致した活動がないと中々出て行かないと思います。学校開放してその中で活動することもあるだろうし、教員は住んでいる地域の学校に出かけて行って指導するとか「コミュニティーと学校との連携」とは外れていくけれども、根本で考えるとそういうシステムにならないと、子どもは出て行けと言っても出て行きたいものがないと出て行かないですね。</p>
A 委員	<p>これからいろいろな問題も出てくるでしょうし、この会を発展させていきたいなと思います。</p>
D 委員	<p>学校教育を進めようと思ったら地域、家庭を抜きにして何事も進みません。今年は挨拶に力を入れてやってきましたが、地域の協力がいらいます。学校という組織として、しつけの話もありましたが、アンケートをとって、こういう取り組みをしていますが保護者の方はどうですかというようなことを家庭に返していく中で理解を得る。挨拶がすべてでなくそれを通して地域の間関係、雰囲気为学校の方から広げていけたらもっといいと思います。学校に手伝っていただくことが多々あるのですが手伝っていただける方はできるだけお願いしますと、そういう機会ができるだけ多くなるようにこれからもやっていきたいと思っています。</p>
F 委員	<p>2年来させていただきまして、先生方が学校でどんな風に地域の人のことを思っているか、つくづくわかりました。今まで知らなかった、たくさんのいろいろな活動をされていることが、わかりました。勉強させていただきありがとうございました。</p>
G 委員	<p>私もたくさん勉強をさせていただきました。ここに参加させていただくことで、研究会や研修会などに行かせていただいて、いろいろな方々の記念講演を聞かせていただき、考え方を広められることができよかったですと思っています。今思うのは、最後の最後は人と人</p>

## 審 議 経 過

No. 20

G 委員	<p>とのつながり、これに尽きると思っています。総合センターで人権のお話があり、その時に「人を受け入れようと思うのではなく、人の話を受け止める。全部それを受けてしまうと自分というものが無くなってしまふけれど、人の話を受け止めて、そこから先は自分の考えの中で進んでいくことが大切だ。」と聞き、これが全ての人の心の中に育っていくと上手くつながっていくのかなと思いました。</p>
C 委員	<p>理想的なことばかり言ってるような感じがするのですが、言うは易し、行うは難しといいますが、地域に帰った形の中で多少経験させてもらったこと、役に立つというとおこがましいのですが、地域の中に入って自分が可能なことについて挑戦したい。知り得たことから実行しようという次の私なりの夢を持ちたいと思っています。</p>
副議長	<p>この1年間いろいろな皆さんの話を聞かせていただいて、4年間に渡って地域教育システムづくりということで話してまいりました。私自身の活動も合わせて、今一番感じているのは子ども達が社会の中で育つ時に自分が社会で生きていることが実感できる場、いろいろな活動をされている団体とつながりあって実感できる場をできるだけたくさん作り出せるような、そんなことができないかなというのが今の夢です。</p>
議長	<p>これで本年度の社会教育委員の会は終わらせていただきたいと思います。</p>